●前回の高騰時には…

08年11月に自民党本部で開かれた自民党のトラック輸送振興議員連盟の総会で、当時の中西英一郎全ト協会長は「トラック業界は近年の燃料高騰に長く苦しんできたが、トラック議連によって燃料サーチャージを軸とする価格転嫁の筋道をつけいただき、現在も業界あげて取り組みを進めている。経営危機打開のために様々な対策をお願いしてきたが、これについても補正予算などを通じて、高速道路料金の大幅な引き下げ、中小零細企業の省エネ努力に対する助成措置など画期的な諸対策を打ち出していただいた」と述べた。

当時はリーマンショックに対応した一次補正予算にトラック事業者向けの構造改善事業のメニューが入った。これは当初、国費42億５０００万円、トラック協会の協調

風

24時間化に対応も

○…「東京港の２０１１年の輸出入は航空からのシフトもあって前年比プラスとなった。日本ではとくに輸入港として最大の港となっており、将来性は十分ある。ただ、むしろ問題となっているのはキャパシティー不足。コンテナ車両が混雑し、コンテナを迅速に引き取れない状況が発生している」と指摘するのは、**東京税関の森川卓也税関長**。東京港の混雑対策については国土交通省や東京都港湾局が主体的に取り組んでいるところだが、東京税関としても改善に期待を寄せている。「早朝ゲートオープン（社会実験）も1年間の延長が決まった。ターミナル（ゲート）が長く開いていれば貨物の搬出も円滑化されるのではないか。税関は既に24時間化に対応しており、利用していただきたい」と語った。

森川　卓也さん

明るい職場づくりを

○…「（日水物流の前身の1つである）西部冷蔵食品時代に、『挨拶の励行で全員営業マンたれ！』と職場風土に改善に取り組んだことがある。職場が明るく元気になれば、お客さまも笑顔になる――と従業員に言い聞かせた」と当時のエピソードを振り返るのは、**日水物流の諫山忠則社長**。冷蔵倉庫に集荷・配送に来る運送会社のドライバーに、従業員が一言元気に声をかけるように徹底したと言う。「評判が口コミでドライバーに広がり、ドライバーが明るく応えてくれることで、職場の雰囲気がさらに良くなった。やはり冷蔵倉庫も現場が一番大事。現場が明るく、働きやすい環境でないと」。今でも暇さえあれば、現場回りをしているとか。

諫山　忠則さん

衰退産業？

○…「一般に電報は衰退産業だとよく言われるが、私自身はそうは思っていない。会社では主に電報を取り扱っているが、単なる言葉だけでなく『ギフト付き電報』といった形でのサービスも展開している。工夫次第ではまだまだ発展していける余地はある」と語るのは**信書便事業者協会の高橋泉会長**。自身が代表を務める会社（ＫＳＧインターナショナル）では、特定信書便事業として電報サービスを展開し、女性ならではの細やかな発想の新サービスを送りだしている。信書便事業の将来についても「従来の〝運ぶ〟という形から、渡し方などを工夫することでクオリティをあげるなど差別化は可能だと思っている」と発想の転換をアピールしていた。

高橋　泉さん